

## ダイミョウセセリ

Daimio tethys

種名



分類	セセリチョウ科												
形態	前翅長 15～21mm。黒褐色の地色、白色斑をもつ。近畿地方頭部付近を境界にして、東側では後翅の白帯が不明瞭になる。「関東型」と、逆に西側では白帯が明瞭な「関西型」がある。境界付近では中間的な形態をもち、移行帯をされるが、個体変異もある。												
分布	北海道(渡島半島中～南部)、本州(陰岐を含む)、四国、九州(五島・対馬を含む)。												
出現期	寒冷地では年2回、5～8月に見られる。本州中部の暖地では、年3回、4～10月にかけて発生する。終齢(5齢)幼虫で越冬する。												
生態	雑木林の林縁に多く、市街地にも棲む。林縁を敏速に飛び、驚くと葉裏に翅表を開いてとまる。イボタノキ、スイカズラなどで吸蜜、地上で吸水する。獣糞にも集まる。卵は葉裏に1個ずつ生まれ、は腹部の毛を卵殻にこすりつけて、卵をカムフラージュする。												
食樹	ヤマノイモ科のヤマノイモ。オニドコロ、ナガイモなど。												
幼虫 (幼生期)	体長 25mm。頭部は大きく、黒色。上部の両端がとがる特異な形。胴部は緑色をおびた灰白色、ずんぐりとした体型をしている。巣をすくる。												
出現時期	(月)	-	-	-	4	5	6	7	8	9	10	-	-
その他													
参考文献：検索入門 渡辺康之著 チョウ													